がん治療 新時代へ サガハイマット 来春誕生

今秋には建物完成

サガハイマットは国内4か所目、九州では初となる重粒子線がん治療施設。九州新幹線新鳥栖駅前の約1万1200平方㍍の敷地に建設中で、鉄筋コンクリート3階建て、延べ床面積は約7500平方㍍。建物は今秋に完成予定で、装置の整備や試験運転などを経て、来春の開設を目指す。

建物のおよそ半分を占めるのが治療装置エリア。イオン源でメタンガスから炭素イオンを取り出し、シンクロトロン（直径20㍍の加速器）で治療に必要なエネルギーまで加速（光の速さの70％）する。こうして作られた重粒子線を治療室に送り、患者へ照射する。治療室は当初2室でスタートし、3室目に次世代型の3次元ビームスキャニング照射装置の導入を予定している。

開設時の医療スタッフは医師5人、医学物理士4人、診療放射線技師6人、看護師3人の18人。放射線医学総合研究所（放医研）や先進医療の協力を受け、スタッフの確保、育成を進めてきた。患者数は初年度分の年間200人、4年目以降は800人を見込んでいる。

総事業費150億円の大半は、民間からの寄付や出資で賄う計画で、佐賀県や福岡県の補助を含めて、これまでに約138億円の調達を見込んでいる。

佐賀国際重粒子線がん治療財団理事長 十時 忠秀 氏

佐賀県医師会会長 池田 秀夫 氏

佐賀大学医学部附属病院病院長 宮﨑 耕治 氏

佐賀県看護協会会長 三根 哲子 氏

佐賀商工会議所副会頭 香月 道生 氏

佐賀新聞社客員論説委員 寺崎 宗俊 氏

SAGA HIMAT
SAGA Heavy Ion Medical Accelerator in Tosu

最先端のがん治療として注目を集める重粒子線がん治療施設「九州国際重粒子線がん治療センター」（愛称・サガハイマット）が来年春、九州新幹線新鳥栖駅前に開設する。九州初となる重粒子線がん治療施設の開設の意義や、治療の有用性を広く県民に知ってもらい、併せてがん撲滅の機運を盛り上げていこうと、佐賀新聞社は昨年度、企業や団体に呼び掛け「サガハイマット応援団」を"結成"した。2年目となる本年度も引き続き、サガハイマットの概要などを紹介していく。

座談会「サガハイマットへの期待」

来年春のオープンを目指し、着々と建設が進むサガハイマット。重粒子線がん治療センターとして、佐賀県民の医療スタッフの確保と育成、施設が佐賀県にできる意義、今後の課題などを佐賀の医療界、経済界、大学の方々に語り合っていただきました。

出席者
佐賀県医師会会長 池田 秀夫 氏
佐賀大学医学部附属病院病院長 宮﨑 耕治 氏
佐賀県看護協会会長 三根 哲子 氏
佐賀商工会議所副会頭 香月 道生 氏
佐賀国際重粒子線がん治療財団理事長 十時 忠秀 氏
コーディネーター
佐賀新聞社客員論説委員 寺崎 宗俊 氏

寺崎 連携で素晴らしい施設に

香月 短期の治療、企業も利点

三根 知識持った看護師を育成

宮﨑 技術進歩、想像以上の効果

池田 早期発見へ検診も大切に

十時 地の利生かし産学官連携

■**寺崎** サガハイマットの建設がそれぞれの立場からどのように進んでいるかお聞きしたいと思います。

■**十時** 古川康知事が最初の先端的施設の誘致に挑戦を掲げられたのがきっかけで可能性を探ることになりました。

■**池田** 佐賀県のがん死亡率何より設置場所が鳥栖だったことです。鳥栖市は交通の要衝で、建設地は新幹線やJRが12年も続いています。重粒子線がん治療が始まる新鳥栖駅のそばとの地の利が多くの協力につながりました。

■**香月** 短期の治療、企業も利点

■**寺崎** 先端のがん治療として注目を集める重粒子線がん治療施設「九州国際重粒子線がん治療センター」（愛称・サガハイマット）が来年春、九州新幹線新鳥栖駅前に開設する。九州初となる重粒子線がん治療施設の開設の意義や、治療の有用性を広く県民に知ってもらい、併せてがん撲滅の機運を盛り上げていこうと、佐賀新聞社は昨年度、企業や団体に呼び掛け「サガハイマット応援団」を"結成"した。2年目となる本年度も引き続き、サガハイマットの概要などを紹介していく。

■**十時** 古川康知事が最初の先端的施設の誘致に挑戦を掲げられたのがきっかけで可能性を探ることになりました。

■**寺崎** 県医師会や九州各県の医師の連携も大きな力になったようですね。

■**池田** 佐賀県のがん死亡率何より設置場所が鳥栖だったことです。鳥栖市は交通の要衝で、建設地は新幹線やJRが12年も続いています。重粒子線がん治療が始まる新鳥栖駅のそばとの地の利が多くの協力につながりました。

■**三根** 知識持った看護師を育成

■**寺崎** 連携で素晴らしい施設に

■**香月** 短期の治療、企業も利点

■**三根** 知識持った看護師を育成

■**宮﨑** 技術進歩、想像以上の効果

■**池田** 早期発見へ検診も大切に

■**十時** 地の利生かし産学官連携

（ご）民間の医療保険でカバーできる場合があります。こうした治療法があるということを、治療費をカバーする保険があるということを多くの方に知っていただきたい。医師から重粒子線の治療を勧められた時に、私たちも積極的にPRしていきたいと思います。

■**寺崎** 施設建設は順調だと聞きますが、人材と資金の確保はどうでしょうか。

■**十時** 医療スタッフの獲成、確保については、これまでに九州大学、久留米大学に医学講座を設置するなどして、医師の方々に専門医の資格を取ってもらうなど、医学物理士という専門職も放医研の協力を受け、既に迎えたり、4月現在で、全国の893人のうちの2000件を超える問合せをいただいており、サガハイマットへの期待の大きさを感じています。今後も、人の命を支えるこのプロジェクトへの協力を呼びかけ、看護に資金が集まってくるようにしたい。

■**三根** 日本看護協会はある特定の分野において練度の高い専門看護師を育成しています。高い看護実践ができる者を認定し、看護師の質の向上を図っています。がん放射線療法看護分野の認定者は、全国で1人です。

■**寺崎** 医師の確保は多くの方が、思うのであればそれぞれの企業が、どう努力するかです。

■**三根** どんなに優れた治療を受けられるように、情報発信でも、自分に本当に効果があるのかという不安は誰にでもあると思います。看護師の役割を理解し、思いを共有することが、患者の安心を増やすことの不安を理解し、思いを共有することが、患者の安心を増やすことの不安を理解し、思いを共有することが、患者の安心を増やすことの不安